

世界遺産 五箇山

南砺市で最も注目すべき場所のひとつは、山に囲まれた地形とそこを横断して日本海へと注ぐ庄川を特徴とする五箇山のユネスコ世界遺産です。五箇山は、山々に囲まれた人里離れた渓谷にあり、アクセスしづらい場所となっています。アクセスが制限されたことから、この隔絶した地域では独自の文化が生まれ、今日まで何世代にもわたって継承されてきました。

五箇山には 40 ほどの集落があり、その中には、ユネスコ世界遺産で、急勾配な構造と茅葺き屋根を特徴とする伝統的合掌様式の家屋で有名な相倉合掌造り集落および菅沼合掌造り集落が含まれます。五箇山から近い白川郷集落を含むこれらの地域には、かつて少なくとも 1,850 軒の合掌様式の建造物がありましたが、経済発展と近代化によって、現在でも残るのは 200 軒未満となっています。相倉と菅沼には、今でも伝統的な合掌造りの家屋で生活している人たちがいます。

五箇山は、隣接する岐阜県にある白川郷の荻町地区とともに、1995 年にユネスコ世界遺産に指定されました。どちらの地域も、保存と保護が必要な日本の優れた文化遺産として認められました。この指定は、ベルリンで開催された第 19 回ユネスコ世界遺産委員会で正式に行われました。その委員会において、白川郷にある荻町、さらに南砺市の五箇山にある相倉および菅沼を含む 3 つの歴史的集落で構成される「白川郷・五箇山の合掌造り集落（英語名：Historic Villages of Shirakawa-go and Gokayama – Traditional Houses in the Gassho Style）」という名で、この地域は世界遺産の目録に追加されました。

これら地域は、集落に重要な時代を代表する構造物または建築物が存在すると見なされること、消滅の危機にある伝統的集落または地域であることなど、文化遺産と見なされる 6 つの要件のうちの 2 つを満たしました。

この地域は春に咲く桜が有名ですが、夏には木々が豊かに生い茂る山々や稲田があることから、鮮やかな緑へと変わります。秋も周囲の山々の葉が燃えるような赤や黄色へと紅葉することから、人気の季節となっています。一方、冬には多くの雪がこの地域に降り、その積雪量は 2~3 メートルになります。合掌造り家屋群に降り注ぐ手つかずの雪は、五箇山の集落の忘れられない光景となります。